

災害への備えは万全に

二股川左岸堤防で市水防演習／市総合防災訓練

水防関係機関の技術向上、体制強化を目的に、市水防演習が5月31日、東和町米谷の根廻地内、二股川左岸堤防で実施されました。

演習は、合併後3地区合同の輪番制で行うこととなっており、今回は東和、登米、津山地区が担当。各支団から団員約110人が参加しました。

布施市長は「市内には北上川や旧北上川、迫川など、豊



シート張り工法を披露した東和支団員



協力して木流し工法を実施する津山支団員



素早い作業で月の輪工法を完成させる登米支団員

かな水辺空間がありますが、それ故に台風や大雨時に水害が発生しやすい地域でもあります。市民の生命と財産を守るために、訓練を通じてさらなる水防技術の向上を目指してほしい」とあいさつ。主藤敏寛市消防団団長（米山）が「近年、世界各地で水害が多発している。消防人として市民の負託に応えられるよう、訓練に取り組んでほしい」と訓示を述べました。

訓練は、大型台風の発生で北上川が増水し、堤防の亀裂、洗掘、漏水などが生じたことを想定。各支団の団員による「シート張り工法」「木流し工法」や、消防本部による「積み土のう工法」を実施しました。

また、川の水位と漏水口との水位差を縮め、水圧を弱めるために行われる「月の輪工法」を登米支団の団員が実施。真剣な様子で、演習に取り組んでいました。



負傷者を手当てする参加者（応急救護所設置訓練）



車用ジャッキを使い負傷者を救出（負傷者救出訓練）

6月8日には、昭和53年の宮城県沖地震を教訓とする県民防災の日（12日）に合わせて、市内各地で6・12総合防災訓練や消防演習が実施されました。

訓練の主会場となった石越総合運動公園には、市消防団石越支団、防災関係機関、応援協定締結企業などから約550人が参加して多くの訓練が行われました。

訓練は、宮城県沖を震源とする震度6弱程度の地震が、市内全域で発生したと仮定。午前8時30分の防災行政無線を合図に開始され、住民の皆さんは、町域内9カ所に設置された訓練会場で、消防署員、消防団員の指導のもと、

消防署やバケツリレーによる初期消火訓練などの基礎訓練を行いました。

その後、石越総合運動公園を会場に全体での訓練が行われ、消防署と石越支団、各行政区の皆さんが協力して、倒壊した建物から負傷者を救出する訓練や、土砂に埋もれた車内から負傷者を救出する訓練、消防団石越支団のポンプ車を使った火災防ぎよ訓練などが実施されました。

また、避難してきた皆さんに参加していただき、避難所設置訓練や応急救護訓練のほか、非常食の炊き出し訓練や給水車による給水訓練も行われ、参加者の皆さんは、本番さながら真剣な表情で取り組んでいました。

生産量日本一を目指して

農業法人と立地協定の調印式

果実、野菜の生産・販売で世界最大手の倅ドールが支援する農業法人倅 I LOVE ファーム三沢と市によるパブリカ生産施設の立地協定の調印式が5月30日、村井嘉浩知事とドール日本法人の三輪



パブリカの生産量日本一を目指し協力を誓いました

高裕野菜統括部長常務執行役員が立ち会いのもと、宮城県庁で行われました。

登米市への立地の要因は、夏が冷涼で、冬は積雪量が少ないなどの自然条件がパブリカ生産に適しているとの判断によるものです。

立地予定地は迫町北方地区内の長沼ダム用の土取場跡地となっており、生産施設は3分の鉄骨ハウスで、国内産の2割を占める年間450トンを生産。その後、順次生産面積を拡大する計画となっており、生産されたパブリカは全量ドールが買い取り、全国に出荷されます。

6月1日から7日までの水道週間に合わせて、水の大切さと水道への関心を高めてもらうために、さまざまな行事が行われました。

ドールが国内に生産拠点づくりを計画した背景には、国内のパブリカ需要は伸びているものの国産は1割にも満たなく、安心・安全な農産物を求めて、国産を望む声が高まってきたことが挙げられます。

ヤマメの稚魚放流は3日、北上川の登米水辺ブラザ船着場で行われ、北上保育園の年長児26人が参加しました。

着工は平成21年度で、初出荷は22年夏を予定しており、国内有数のパブリカ生産地を目指しています。

園児たちは、救命胴衣を着用し、いつまでも魚が住めるきれいな川であるようお願いを込めながら、全長10メートル程度に



北上保育園の園児によるヤマメ稚魚放流



大きく育つように一本一本丁寧に植樹しました



植林に参加した登米中3年生の皆さん

育ったヤマメの稚魚、約6千匹を放流しました。

等間隔に印が付けられていた個所に、一本一本丁寧に植えました。

自然から水の大切さを学ぶ

水道週間に合わせ市水道事業所で各種行事

記念植樹は4日、津山町柳津地区の入土地内の森林で行われ、登米中3年生、48人が参加しました。

登米中3年の高橋滉くんは「自分たちが植えたこの小さな苗木が大きく育ち、二酸化炭素を吸収することによって、少しでも環境が良くなってくればよいと思います」と話していました。

津山町森林組合の職員が、森林には砂防や温暖化防止などの効果があることを説明。植樹の方法を指導した後、作業が始まりました。

そのほか、浄水場の見学会や北上川河川敷の清掃作業なども行われました。